

学校教育における現状

広島県教育委員会事務局生涯学習部
スポーツ振興課学校体育係 黒田康弘

1 小学校、中学校での現状

学習指導要領に示された「道徳」の内容の一部（関連分抜粋）

学校種及び学年		内容
小学校	第1学年及び第2学年	生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。
	第3学年及び第4学年	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
	第5学年及び第6学年	生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
中学校		生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

※ 資料は、暁教育図書、光村図書、教育出版、の抜粋

2 普及啓発へのアプローチ

(1) 前提

- 生徒は、担当の教師の言動に左右されやすいものである。また、家に帰り学校での話題を家族に話し、意見を求めることがある。
- 臓器移植については、いろいろな考えを持つ生徒・保護者がいる中で、学校で扱う内容としての説明責任が生じたとき、学校や教育委員会には、学習指導要領のような確かな根拠がない。

(2) 普及啓発へのアプローチ

- 小学校・中学校へは学習指導要領の内容の範囲で扱えるよう「ドナー登録をしましょう」を前面にしたものではなく、「生命の尊さ、自他の生命の尊重」を前面にした、普及啓発資料にする。
- 教師に対する学習資料は継続して提供する。その際も、学習指導要領の内容の範囲を意識したものにする。
- 現在も親子向けの啓発資料があるが、保護者に対する学習資料の提供についても、学校で扱うものとして作成する。
- 道徳の副読本には、現在も手記などが掲載されている。「副読本にも載っているということ」が学校で扱う根拠になっていることから、継続して載せることができるよう、関係出版社へ情報提供などの協力を求める。



ある人が事故や病気で、法律で定められた病院によつて「脳死」と判定された場合、臓器を提供することができます。臓器移植とは、臓器の機能が低下し移植でしか治らない人と、提供してもよいという人を結び医療です。しかし脳死の状態では、その人は意思表示することはできません。ドナーカードは、十五歳以上の人が生きている間に自分の意思を伝えておく一つの手段です。ドナーカードによって、臓器を提供する意思と、提供しない意思を表すことができます。一枚は自分のために、一枚は大切な人のために、二枚のカードに記入します。

娘をドナーに私は出来ない

主婦 高井 ゆかり (神奈川県横浜市 三十八歳)

我が家で先日、小学四年生の娘がドキッとするようなことをいいました。

「ねえ、お母さん。もしも私が脳死になったら、私の臓器提供する？」

話の内容の重さと、あまりの突然さに、私は絶句してしまいました。

その日、学校で先生から臓器移植の話聞いたというのです。私は思わず娘を抱きしめ、ゆっくりと本音で答えました。

親にとり子供は何よりも大切なもの。脳死というのは、脳の働きが停止し、やがて亡くなるという状態だけど、まだ息をしているし心臓も動いている。そんなあなたから内臓を取り出すなんて、お母さんは出来ない。あなたの体だけでも白雪姫のように取っておきたいくらい、いとおしく、手放せないと思う。同じ大切な家族でも、それが大人なら、ある程度人生を生きて本人の意志があれば、移植も考えられると思う。

あなたは、お母さんよりも先に死んだら絶対に駄目よ、といいながらも切なかつたのは、少

し前に海外で心臓移植を待ちながら亡くなった幼い子のニュースに涙したことを思い出していたからです。私の考えは狭いのでしょうか。自分勝手でしょうか。

家族の場合に迷う臓器提供

医学部講師 新見 正則 (東京都板橋区 四十歳)

私のドナーカードを妻は秘密の場所に保管している。私が脳死になった時に、臓器提供に同意するかどうか考えるそうだ。

私はイギリスで五年間、移植医療の現場を見てきた。移植医療は、多くの不治の病の患者さんに再び日常生活を与え、仕事も、スポーツも、そして出産までも可能とする医療である。

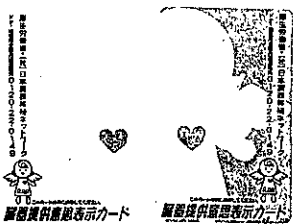
しかし、私にも臓器提供を素直に受け入れられないところがある。それは多くの臓器は脳死者から提供されなければならないからだ。最愛の妻が脳死になっても、心臓が止まり体が冷たくなるまで抱擁していただろう。

ところが、家内が移植医療以外に助からないとなれば、ぜひとも移植医療を受けさせたいと願うであろう。その高い成功率を知っているから。

運命を思い病気を素直に受け入れることも一つの方法と思うが、「あげたくない、でも、もらいたい」というのが素直なところか。

もし、私が脳死状態となり、私の臓器がどなたかに新しい人生を与える可能性があるならば、家内には秘密の場所からドナーカードを出して私の臓器提供の意思に同意してほしい。移植に携わった経験から、私は体が温かく心臓は鼓動していても、自分を規定している脳が死んだ状態も死と認めるようになったから。

正しき者は益み多く。(旧約聖書)



臓器提供意思表示カード

ドナーカード
厚生労働省と社団法人日本臓器移植ネットワークが発行する臓器提供意思表示カード。本人だけでなく家族など大切な人にも持ってもらえば、二枚に記入することを呼びかけている。



臓器提供意思表示カード
あなたも意思表示があります。このカードは無料で発行できます。厚生労働省(株)日本臓器移植ネットワーク ドナー情報センター 電話: 0120-22-0149

(該当する1,2,3.の番号を○で囲んだ上で提供したい臓器を○で囲んで下さい)
1 私は、脳死の状態に陥り、臓器提供の場面に○で囲んだ臓器を提供します。(※つけた臓器は提供しません) 心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・腸管・その他()
2 私は、心臓が停止した状態、移植の場面で死んだ状態も提供します。(※つけた臓器は提供しません) 腎臓・脾臓・腸管・その他()
3 私は、臓器を提供しません。
署名年月日: _____年 _____月 _____日
本人署名(自筆): _____
家族署名(自筆): _____
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本臓器移植センター

ドナーカードは、臓器提供の意思表示だけでなく、臓器を移植しないという意思表示もできる。

娘が贈った七つの宝石

新聞記事 画 小林 マキ

Tさんの次女、理恵さんが、ジョギング中に車にはねられ、都内の大病院に運ばれたのは数年前の朝。

「脳幹の損傷が大きく、脳死状態と思われます。」

医師の言葉はあまりに悲しく、重かった。数日後には人工呼吸器を使っても心臓が動かさなくなると言われた。

長女が、理恵さんがドナーカードを持っていることを思い出した。理恵さんの財布を捜すと、確かにカードがあった。サインも日付もしっかり記入されていた。心臓、肺、肝臓、腎臓、脾臓、小腸、眼球、その他、すべて丸印が付いていた。

Tさんは、そのときまで、理恵さんが脳死になったときに臓器提供の意思をもっていることを知らなかった。「勝手に決めて……。こんな大事なおことを、娘の体を傷つけることへの強い抵抗と、意思の尊重のはさまで悩んだ。」

確かに、理恵さんは、「人を助ける仕事をしたい。」と、介護の勉強をしていた。だが、Tさんが決心したのは、ドナーカードを記入しサインした日付を見たときだ。わずか七週間ほど前だった。Tさんの母親の三回忌があった時期。「生」や「命」を考へ抜いた末のサインだと感じた。

「こんなనికిちんと書いてあるんだから意思をかなえてあげようか。」

Tさんの言葉に、妻も長女も同意した。

病院から連絡を受けたコーディネーターが到着、臓器移植について説明を受けた。提供の意思に変わりのないことを、何度もやり取りした。

事故から三日目の朝、眠っているような理恵さんに別れを告げた。血色はよく、手も温かかった。が、名前を何度呼んでも、目を開けることはなかった。妻の希望で、美しかった目と皮膚だけは、摘出しないことにした。

理恵さんはとても健康だった。事故による損傷は脳以外にはほとんどなかった。摘出された臓器は移植を待つ七人のレシピエントの元に運ばれ、移植は成功した。摘出が終わった理恵さんは病院の霊安室へ運ばれた。お気に入りだった白いドレスを着せた。コーディネーターが白いカサブランカの花束を理恵さんの胸にささげた。まるで花嫁姿のようだった。

霊安室のドアが少し開いて、病院長が、

「お嬢さんに、お焼香をさせていただきます。」

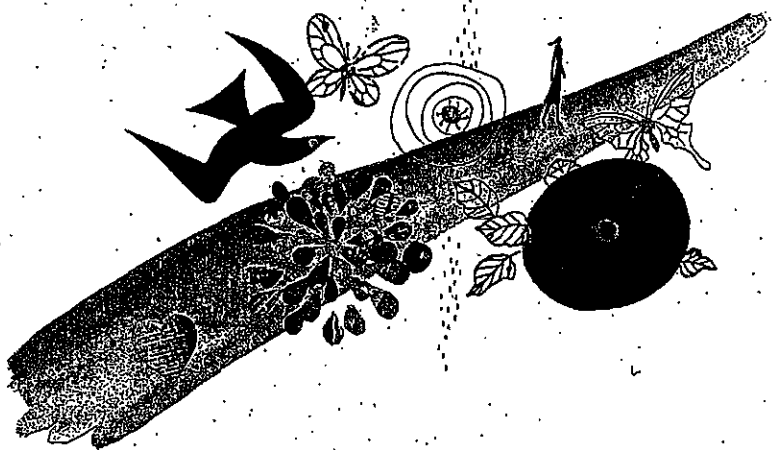
と申し出た。

「どうぞ。」

とドアを開けると、そこには、病院中の医師、看護師、職員らの長蛇の列ができていた。百人以上が並んでいた。

「お嬢さんは本当によくやってくれました。何人もの命を救ってくれました。」院長の言葉に涙がこぼれなくなった。

「人々に『生』をもたらした娘の七つの宝石。移植を受けた七人の中に理恵は生きています。」Tさんはそう感じている。



みんなで考えよう

- 1 理恵さんは、どのような考えからドナーカードにサインしたのでしょうか。
- 2 Tさんは、どんな思いで「人々に『生』をもたらした娘の七つの宝石」と言ったのでしょうか。

[出典] 産経新聞2007年8月14日朝刊

*脳死
大脳及び脳幹の全機能が停止している状態。

*ドナーカード
臓器提供の意思を記入するカード。

*レシピエント
移植を受ける候補者のこと。

*コーディネーター
臓器移植が円滑に公平に実施されるよう調整をする人。



17. ドナーカード 編集委員会

「ドナーカード」を知っていますか。正式名称を「臓器提供意思表示カード」といいます。

人が「脳死」状態（脳全体の働きがなくなり、生命維持装置の助けがなければ亡くなってしまふ状態）に陥った時、その臓器をほかの人に提供することが可能です。もし自分がそういう状態に陥った時、臓器を提供します、あるいはしません、という意思を示すために持つのが「ドナーカード」です。

移植でしか助からない命、治療はできないけれども移植すれば健康を回復できるという病気があります。長く病氣と闘いながら、適合する臓器が提供される機会を何年も待っている人たちが、たくさんいます。

一方、臓器を提供する体は、脳の機能が失われているとはいっても、心臓が動き、体温は温かく、まるでただ眠っているだけのように見えます。その命を絶ら切ることによって、臓器提供が可能になります。

そして、提供される人（レシピエント）にも、提供する人（ドナー）にも、家族や友人がいます。脳死で臓器を提供できるのは、十五歳からです。

自動車の運転免許を取得したAさん

この春、高校を卒業しました。友達と一緒に自動車教習所に通い、自動車の運転免許を取得しました。その時、運転免許センターに置いてあった「ドナーカード」の説明を読みました。

もし交通事故に遭って命を落としてしまったら、使える臓器までお墓に入れてしまうのはもったいないと思います。だから、臓器提供の意志に同意しました。「ドナーカード」は運転免許証とともにいつも携帯しています。

二人の子供を持つ主婦Bさん

テレビで臓器移植のニュースを見ていた時、小学生の上の娘がこんなことを言いました。「わたしも病気で困っている人のために自分の臓器を提供したいな。ねえ、いいでしょ、お母さん。」

突然の娘の言葉にびっくりです。なんと立派なんだろうとさえ思います。だけど、考えてください。自分のかわいい娘の心臓が動いているのに、息をしているのに臓器を取り出すなんて、わたしにはできません。娘の言葉に返事ができませんでした。

ドナーカードを持っている会社員Cさん

わたしは父の死をきっかけに「ドナーカード」を持つようになりました。たとえ愛する人が死んでしまっても、その臓器がほかのだからの体の中で生き続けていく

← 該当する1.2.3.の番号を○で囲んだ上で提供したい臓器を○で囲んで下さい

1. 私は、脳死の判定に従い、脳死後、移植の為に○で囲んだ臓器を提供します。(×をつけた臓器は提供しません)
心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・眼球・その他()

2. 私は、心臓が停止した死後、移植の為に○で囲んだ臓器を提供します。(×をつけた臓器は提供しません)
腎臓・脾臓・眼球・その他()

3. 私は、臓器を提供しません。

署名年月日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

本人署名(自筆): _____

家族署名(自筆): _____

(可能であれば、この意思表示カードをもっていることを知っている家族が、そのことの確認のために署名して下さい)

臓器提供意思表示カード



あなたの意思表示ありがとうございます。このカードは常に携帯してください。
厚生労働省・(社)日本臓器移植ネットワーク
ドナー情報用全国共通連絡先：0120-22-0149

れたら、肉体は失われてもその精神はこの世に存在するような気がするのです。臓器移植で助かった命がまた次の命につながる。そしてそのまた次の命へ。臓器を提供することにつながる命。とても大切なことだと思えます。

家族が「ドナーカード」を持っていることを知ったDさん

わたしの夫は「ドナーカード」を持っています。「おれに何かあったときには、必ず使える臓器は困っている人に提供してくれ。」これが夫の口ぐせです。

愛する人の気持ちは最大限尊重したいと思っています。でも、いざとなった時に、はたして夫の体に入れますか。入ることができるでしょうか。今のわたしはイエスともノーともいえないような気がします。わからないし、決められません。これからもっと夫婦でたくさん会話をし、いちばん納得のできる答えを見つけていきたいと思っています。

会社を定年退職しEさん

ドナーカードには署名しません。わたしは六十歳になる今まで、病気一つしたことがありません。自分の体には寿命というものがあります。だから、その寿命が過ぎるまで精いっぱい生きたいと思います。途中で、とぎれてしまう命もあると思います。しかし、それもその人の運命ではないでしょうか。

今は医療技術が発達しました。しかし、決められている寿命を、技術を駆使して延ばすことには抵抗があります。自分に与えられた寿命を精いっぱい生きることが大切なのです。

家族を難病でなくしたFさん

ぼくの兄は、去年心臓の病気でなくなりました。命を助けるための唯一の手段が臓器移植でした。しかし、それもかなわぬまま三十七歳の若さでなくなりました。

もし、あの時、兄に合うドナーの方がいたら、兄は助かったかもしれません。移植された臓器は、その人の中でもう一度生きていくことができます。ドナーカードにより救える命があるんです。ぼくのような思いをする人がいないように、たくさんの人にドナーカードを持ってほしいと思います。

病院に勤務する看護師のGさん

脳死状態の患者さんは、病院の集中治療室に収容されます。わたしの病院にもいます。呼吸器をつけていますが、髪や爪も伸びます。ヒゲをそってあげる時に、カミソリを強くあてすぎると、血がにじんできます。胸に耳をあてると心臓の音も聞こえます。体もあたたかいです。この患者さんはまぎれもなく生きています。

病院の受付にドナーカードが置いてあります。だけど、わたしはドナーカードを持ってません。